

# 文化・スポーツで発展する 多彩なまちづくり～これまで20年の足跡～

2000

- ・「坂の上の雲」を軸とした21世紀のまちづくり基本構想を策定
- ・「まつやまふるさとウォーク」「坂の上の雲」を歩こう」を開始



- ・「坊っちゃんスタジアム」こけら落とし（プロ野球広島-中日戦）
- ・第1回の「だから、ことば」大募集を開催



2004

- ・「東京ヤクルトスワローズ秋季松山キャンプ」を初開催



2002

- ・コムズ内「まつやまNPOサポートセンター」を開設
- ・「プロ野球オールスターゲーム」を松山市で初開催
- ・正岡子規が野球殿堂入り



2006

- ・市民主体で進めるまちづくり団体の第1号が堀江地区で発足（以降、市内各地で設立）
- ・市民活動推進補助金により、NPO団体の立ち上げ・成熟の支援を開始
- ・「全日本女子硬式野球選手権大会（第2回）」を松山市で初開催

2004

2003

2002

2001

2001

- ・子規没後100年を記念し、俳句甲子園を共催開始



2003

- ・坂の上の雲まちづくりチームを発足
- ・「マドンナスタジアム」供用開始

2005

- ・市民活動推進条例の制定
- ・松山市、北条市、中島町が合併開始
- ・「アコアパレットまつやま」供用開始
- ・楽曲「この街で」誕生
- ・「トリアスロン中島大会（第20回）」を合併後、初開催



2008

- ・第3回まち交大賞総合賞計画大賞受賞（市中心地区）
- ・「女子野球ワールドカップ（2008）」を開催



2010

- ・坂の上の雲ミュージアム来館者数50万人達成
- ・「松山島博覧会（しまはく）」の開催
- ・「愛媛マラソン（第48回）」を市民マラソン大会として初開催

## 「挑む」～未来への「兆し」を形にするため、私たちの「手」で「挑む」～

松山市では、俳句に代表される独自の「ことば文化」や、野球をはじめとするスポーツがまちに根付き、継承されてきました。この魅力あふれる文化・スポーツをまちづくりに生かすため、令和2年4月に「坂の上の雲まちづくり部」を創設しました。まちづくりの拠点である坂の上の雲ミュージアムを核として、先人たちが築きあげてきた文化・スポーツをはじめとする松山の特色や地域特性、各地域の宝を、まちづくりの主役である市民の皆さんと一緒に、さらに発展させていきます。

2012

- ・「愛ランド里島構想」を策定
- ・「プロ野球オールスターゲーム」2度目の開催



- ・「北条鹿島博物館（かしまー）」がリニューアルオープン
- ・「三津浜地区活性化計画」を策定

2011

- ・まつやま里島ツーリズム連絡協議会設立
- ・「北条スポーツセンター」全面供用開始



2013

- ・坂の上の雲ミュージアム来館者数100万人達成
- ・「風早レトロタウン構想」を策定
- ・三津浜にぎわい創出事務所「三津ハマル」がオープン
- ・三津の朝市「旬・鮮・味まつり」を初開催
- ・「風早にぎわいレトロまつり」を初開催
- ・北条鹿島で「こ夏鹿島!! 海びらきフェスタ」を初開催
- ・「この街で」ウェディング in 松山開催



2014 2016

- ・「第24回世界少年野球大会 愛媛大会」を開催
- ・俳句甲子園第17回大会記念事業として開催したシンポジウムで俳都松山宣言を発表
- ・小学生以上の子どもや若者たちのアイデアと行動を応援するまちづくり提案制度を開始（次世代育成支援事業）
- ・「いい、暮らし。まつやま 移住支援チーム」を創設



- ・台湾のホストタウンに登録され、野球などの事前合宿を開催

2018

- ・明治150年記念、秋山真之生誕150年記念事業
- ・市文化芸術振興計画を策定
- ・「NPBガールズトーナメント（2018）」を初開催



2020

- ・坂の上の雲まちづくり部を創設
- ・「ほしふるテラス 姫ヶ浜（姫ヶ浜荘）」がリニューアルオープン
- ・「女子野球タウン認定事業」の第一号に認定

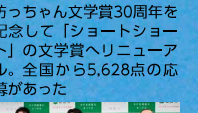


- ・共生社会ホストタウンに登録され、パラ陸上などの事前合宿を開催
- ・坊っちゃん文学賞30周年を記念して「ショートショート」の文学賞へリニューアル。全国から5,628点の応募があった



2019

- ・共生社会ホストタウンに登録され、パラ陸上などの事前合宿を開催
- ・坊っちゃん文学賞30周年を記念して「ショートショート」の文学賞へリニューアル。全国から5,628点の応募があった



### 20年をふりかえって



アートNPOココア理事長 徳永 高志さん

まちづくり拠点と文化施設を融合した「八戸ポータルミュージアムはっち」の館長をお招きしたとき、「松山市を手本にワールドミュージアムを構想した」とお聞きしました。

フィールドミュージアムは、地域の歴史的資源を掘り起こすだけでなく、今に生きる市民が新たな文化資源を生み出す喜びでもあります。私もその仲間に加わりたいと思います。



坂の上の雲ミュージアム総館長 松本 啓治さん

坂の上の雲ミュージアムは、開館以来まちづくりの中核施設として展示、情報発信、まちづくり支援という役割を担ってきました。これからも松山の活性化のため、市民の皆さんとともに「松山ならではの個性豊かなまちづくりを進め、松山のまちに根付いた、市民に愛されるミュージアムを目指していきたいです。



ことばのちから実行委員会委員長 五百木 幸子さん

「ことばのちから」をキーワードに、全国からことば作品を集め、「街はことばのミュージアム」と題して、路面電車や松山空港など市内各所に掲示しています。2020年の「だから、ことば大募集」で寄せられた新たなことば作品も、これから活用していきます。市民や観光客の皆さんに、松山ならではの「ことば」の文化を感じていただければと思います。



愛媛マラソン実行委員会副会長兼実行委員長 濱崎 栄則さん

約60年の歴史を誇る愛媛マラソンは、2010年に現在の市民マラソンに生まれ変わり、沿道の絶え間ない声援や、松山ならではの「おもてなし」で、多くのランナーに愛される大会となりました。

また、2014年の本市と台北市の友好交流協定をきっかけに、お互いのマラソン大会に両市の選手団が参加する交流を継続して行っています。今後とも地域に根ざした大会として、魅力あるまちづくりに貢献したいと思っています。

